



きべ ゆうな
岐部 夢菜さん

国東高等学校双国校 陸上競技部

岐部 夢菜さん(2年生)は、中学校時代にジャベリックスローで県大会に出場した経験から、高校では「やり投げ」をしたいと考え、「投てき」種目の本格的な指導を受けられる国東高校双国校に進学しました。陸上競技部では顧問の長谷川 良先生の指導のほか、「やり投げ」の国体ヘッドコーチの指導も長谷川先生に連れてってもらい週に1度受けています。その結果、昨年は秋の県大会で2位、その後の大会で九州ランキング9位にあたる自己ベストの42.97mを記録しました。しかし、今年度は、右ひじの故障で、なかなか納得する投てきができていません。

夢菜さんは、「まずは、しっかりと故障したひじを直して、1年時の自己ベストを1cmでも更新したい。そして、『投てき』をするために双国校の陸上部に入りたいと多くの人に思ってもらえるように、高校最後のインターハイで3位入賞を目指し頑張りたいです」と話していました。



のざき しゅういち
野崎 秀市さん

深弘産業株式会社(国見町野田)

野崎 秀市さんは、県外の建材メーカーで4年間修業した後、父 太さんが起業した深弘産業(株)を継ぐため、昭和54年に帰省しました。当時は、多品目を扱っていた小売販売業をユニットバスやサッシなどの住宅設備とガソリンスタンドへ集約する転換期でした。そして、昭和60年に会社を引き継いだ直後、苦しい時期を迎えましたが、「お客様に納得してもらえるまで、きめ細かいサービスを率先して行うこと」を徹底し、地元のお客様に信頼され利用していただけようになりました。順調な経営の中、福岡の建材メーカーで9年間修業した息子の秀之さんが、平成24年から一緒に働くようになりました。

秀市さんは、「息子から地元に戻って後を継ぎたいと言われた時、正直びっくりしました。しかし、自分は父が亡くなり社長となり苦しい思いをしたので、息子が社長としてやりたいことができるようにしっかり支えていきたい」と話していました。



左から3番目が野崎秀市さん、右隣が秀之さん

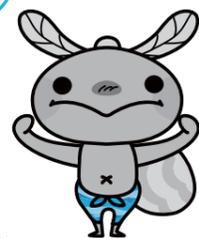


かみ むら さちお
上村 幸男さん

梅田真空包装株式会社 大分事業所(武蔵町小城)

上村 幸男さんは、34年前に大阪府にある紙やプラスチックで商品をデザインパッケージする梅田真空包装株式会社に入社しました。平成27年7月、取引先との関係で、武蔵町に事業所を開設するため、現場責任者として国東市に転勤してきました。そして、社会人から始めた趣味のサクスを通じて地元の方達と交流したいと、「むさしウインドハーモニー」に入りました。

幸男さんは、「国東市に来て驚いたのは、皆さんの人柄の良さです。会社に採用した若者は素直で真面目ですし、ウインドハーモニーの皆さんは譜面も読めない私を優しく迎え入れてくれました。そんな国東市に貢献するためにも、仕事では事業を拡大して従業員を増やし、サクスでは皆さんに喜んでもらえるような演奏ができるように練習に励みたいです」と話していました。



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

国東の輝きひと Vol.6



いま むら あつし
今村 充志さん

有限会社今村牧場(安岐町山浦)

今村 充志さんは、幼い頃から両親の手伝いをする中で、顔や目がかわいところから牛が大好きになりました。そこで、後継者となるため、山香農業高校に進学し、東京農業大学でさらに高度な畜産技術を習得しました。今村牧場では、牛乳を販売する「酪農」と肉用子牛を生ませて販売する「繁殖」を組み合わせた複合畜産しており、就農直後は作業を覚えることだけで精一杯でした。しかし、徐々に大学で学んだ知識を活かせるようになり、今では牛の繁殖のための「人工授精」を全て任されるようになりました。

充志さんは、「酪農用の乳牛75頭と繁殖用の和牛30頭は、それぞれ単独では平均的な経営規模ですが、複合畜産としては大規模経営になります。これ以上増やすということは簡単なことではありませんが、自分の子ども達にも後を継ぎたいと思ってもらえるような牧場にしていきたい」と話していました。



左から今村充志さん、父の均さん